

# 上肢、股関節、膝、足、 脊椎の専門医が ラインナップ

整形外科の領域は首から下のすべての骨、関節、筋肉、腱など非常に範囲が広く、治療は各々の専門が行うのが主流だ。当科では身体すべての部位を網羅する専門医が揃っており、外傷だけでなく様々な疾患に対応できるのが特徴だ。今回はそれぞれ専門医を紹介する。



今回、取材できなかったが、部長の熊野穂積医師（上部左から3人目）は骨折治療学会や中部日本整形外科学会災害外科学会の評議員を務める骨折や外傷外科の専門医で、救急搬送された患者さんに迅速、適切に対応し、年間手術件数600件をこなす当科の顔。また、日本でも数少ない足の専門外来も行っており反母趾や偏平足、足関節の変形性関節症や靭帯損傷などに定評がある。

## 股・膝関節のエキスパート

部長 中島保倫医師

高齢化に伴い急増する骨折や骨の変形による股関節症や股関節唇障害、大腿骨頭壊死、膝関節症などの専門医である中島医師。まともに歩けなかった人が歩いて退院できるなど手術実績に定評があり、口コミで患者さんが人工関節手術を受けに来くるが、「手術はリスクを慎重に考

えなければならぬ。例えば高齢者の転倒による大腿骨頸部骨折などは肺炎などを起こしやすく、寿命までも短くなるという結果も出ており、既患症なども関係するため、その人にあった治療が大切だ」。何歳になっても元気に歩けるために日頃のケアや筋肉をつける体操、食生活や



生活形式の改善なども包括的に指導する。

また、股関節や膝関節の痛みから発症する関節リウマチの早期発見にも取り組んでおり、「強い痛みは続くようであれば早目に受診をお勧めします」。

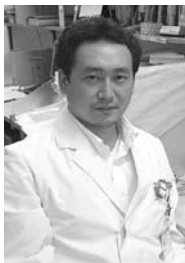
## 数少ない脊椎脊髄専門医

副部長 坪井競三医師

この春、赴任した坪井医師は腰部脊椎管狭窄症や椎間板ヘルニア、頸椎症脊髄症などの治療にキャリア12年の実績を持つ。加齢などの原因で脊椎管内の靭帯が太くなり、神経を圧迫し、手足の痛み、しびれなどを起こす疾患には、まず薬治療を行い、それで改善しなければ、それ以上、薬や物理療法、ブロック注射は効果がありなく、手術が有効だと日本整形外科学会のカイドラインに明記されている。とは言って

も脊椎手術は怖いというイメージがある。それについて坪井医師は「現在、最も安全で確実な顕微鏡下の手術を主に行っており、手術時間は脊椎狭窄症の場合で約1時間30分。翌日には歩け、早ければ2日後には退院できなくも、身体的リスクは低く出血も少ない。ほとんどの人に手術が可能だが、発症からの時間が長くなるほど手術効果が低くなるので、早期手術が望ましい」。

赴任後、広く告知していき



## 上肢機能再建のオーソリテイ

上肢機能再建研究所

所長 阿部宗昭医師

肘、手の外科専門医として高名、大阪医科大学名誉教授でもある阿部医師が当科のスーパースペシャリストとして赴任したのは3年前。他医療機関では改善しない症例を多く手掛け、特に50代以降の女性に多い手根管症候群やばね指、加齢や肘の骨折などから小指薬指の麻痺、変形が起き

る肘部管症候群など、かなりの経験がなければ難しい腱断裂手術を執刀する。しかし、阿部医師は「手術は最終手段であり、私の所に来て薬や注射、装具利用などで改善する患者さんが大半だ」。それでも治らず、手術をするか否かは40年の経験で培った直感で判断。手術をする場合は術後



のりハビリを担当する作業療法士を手術現場に立ち合わせる。「こんなことをしている医者は他にいないだろうなあ。権威者雲の上の人：人はそう呼ぶが、温和で物静か。実るほどに頭を垂れる：神様なのだ」。